

心の輪を広げる体験作文

【中学生区分】優秀作品

千葉大学教育学部附属中学校 一年

笑顔の愛

三井 昭澄

小学校五年生の時のこと。僕は、楽しい放送をしたいという思いで放送委員会に入った。一年生から毎日聞いてきたお昼の放送。最近は毎日似たような内容で聞く人は少なくなってきた。何かみんなを引き付けられるような楽しい企画はないだろうかと考え、テレビ放送で人形を使った物語を作ろうと思い付いた。

校内の様々な場所を舞台にたくさん写真を撮り、物語を作り上げていく。放送は見ごとに大成功。クラスみんなは放送に釘付けだったと放送委員の仲間から聞いた。

それから数日経って、障害をもつ子がいるフレンド学級の青木先生に用事があり、クラスに行った。

すると、青木先生から「今度、フレンド学級でもう一度あの物語を聞かせてもらえないかな」と頼まれた。僕は、準備をすることにした。しかし、これまでとはちがう不安があった。今回は放送室からではなく、直接話をする。どんな反応なのだろう。笑ってくれるのだろうか。僕は、脳に障害のある生徒だということを気にしすぎていた。「大きな声でいいねい話そう。」

いざ始めると、真剣に聞いてくれたり、手をたたいて喜んでいたり、様々な生徒がいた。そしてみんなが笑顔でいることに気が付いた。「笑顔っていいな」ふと思った。僕も、笑顔だった。教室のみんなが笑顔でいることがうれしくて声がはずんだ。

多くの考えた物語は本当におもしろかったのかは分からないけれど、一生懸命に伝える気持ちはず伝わるということを学んだ。

笑顔にはみんなの心を一つにする力がある。そこには障害というものは関係ない。僕は、笑顔のあふれる空間が大好きだ。そして、このことをもっとたくさんの人へ広めていきたい。だからこれからも笑顔の愛を大切に作る。